令和4年度
事業計画・収支予算

一般会計（救護・社会活動）

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1．令和3年度　主な取り組みと今後の課題

（「日本赤十字社長期ビジョン」に基づく戦略項目の取り組み）

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
災害時に支援の手が届きにくい分野への貢献（救護活動）	災害時の支援の充実とレジリエンスの強化	• 感染症まん延下における救護活動の体制整備 • 新たな救護員育成体系の構築にかかる整理検討	• 新たな救護員育成体系への移行に向けた検討 • 継続的な研修及び訓練の実施 • 災害時のボランティア活動実施のための環境整備 • 災害時に支援が届きにくい被災者への支援方法の検討
防災・減災知識・技術の普及推進（防災・減災活動）		• 感染防止を考慮した防災教育事業の推進	• 防災教育事業の実施体制の充実 • 防災教育事業におけるICT活用の検討 • 青少年赤十字防災教育の推進
地域づくりへの貢献（講習事業）	講習事業を通じた地域づくりへの貢献	• 関係機関との効果的協働に向けた取り組み • 講習事業におけるボランティアの参画拡大に向けた環境整備	• 他団体等との連携やボランティアを主体とした講習展開の強化 • ICTを活用した新たな講習の検討 • 姉妹赤十字社における救急法等の普及活動への支援

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
社会活動推進のための企業・団体との連携強化（地域における社会活動）	事業間連携、社内外連携・協力推進	• 行政、他団体等の活動状況の把握 • 地域の実情に合った社会活動の推進にかかる検討	• 地域包括ケア貢献に向けた日本赤十字社が有する各機能の結集 • 他団体等と協力した地域づくり
豊かな心をもった青少年の育成強化（青少年赤十字）	教育現場が抱える課題に即した人道教育の推進	• 学校の課題解決の一助となるプログラムの提供 • 教育現場から選ばれる活動の普及・継続 • 青少年赤十字創設100周年事業の計画・準備	• 人道教育の展開による豊かな心を持った青少年赤十字の育成強化 • 青少年赤十字創設100周年を契機に教育現場から選ばれる活動を展開
国内事業と国際事業の融合による新たな活動の推進（国際救援・開発協力）	大規模災害を想定した緊急即応体制（病院ERU）の整備・登録	• 病院ERUの整備、登録完了（各種マニュアル作成を含む） • オンライン研修の企画・実施	• 更なる人材育成・確保及び関係諸機関との連携強化
	気候変動等の影響に立ち向かう地域社会のレジリエンス強化	• コロナ禍における気候変動・防災・減災・疾病予防等の開発協力事業の実施	• 災害や感染症などの危機に備え、自立的な発展を遂げる力（レジリエンス）の強化

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
国際赤十字運動への更なる貢献（国際赤十字との協働）	国際赤十字との更なる協働	• コロナ禍で国際社会の人道課題に対する関心・支援が低下する中、国際赤十字の強化戦略の策定に貢献	• 国際赤十字本部事務局や姉妹各社の資金造成等の強化に向けた指導力の発揮 • 連盟総会等（2022年6月）の主要議題にかかる政策提言
最大の原動力である会員組織の拡充（会員・社資）	多様な方法による継続的な社資協力の確保	• 多様な寄付機会の提供による会員・社資募集の拡大 • 法人会員加入への勧奨促進及び既存法人会員との更なる連携強化 • 遺贈・相続財産寄付の推進体制強化	• 多様な寄付機会の提供による会員募集及び社資確保 • 法人会員加入の勧奨促進及び既存法人会員との更なる連携強化 • 遺贈・相続財産寄付の推進体制の整備 • 会員等とのコミュニケーションの強化
	会員との連携促進と情報セキュリティの強化	• 全国会員情報システム機能拡張による情報活用の推進	• 会員との双方向の理解促進に向けた環境整備と会員等データの適正管理及び活用
ボランティア主体の活動強化（赤十字ボランティア）	ボランティアが中心になって活動できる体制の構築	• 支部指導講師による活動体制の強化及び研修体系充実に向けた現状把握と取り組み内容の検討	• 支部指導講師の活動体制の強化 • 研修体系を整備し、実施体制を強化

2. 令和4年度事業計画の主な取り組み

（1）災害救護　2,879,112千円

（1-1）救護活動

- 新たな救護員育成体系への移行に向けた検討
- 継続的な研修及び訓練の実施
- 災害時のボランティア活動実施のための環境整備
- 災害時に支援が届きにくい被災者への支援方法の検討

（1-2）防災・減災活動

- 防災教育事業の実施体制の充実
- 防災教育事業におけるICT活用の検討
- 青少年赤十字防災教育の継続及び教材の改訂

（2）社会活動（講習事業・地域包括ケアの推進等）　1,901,713千円

（2-1）講習事業（応急手当・介護方法の普及）

- 他団体等との連携やボランティアを主体とした講習展開の強化
- ICTを活用した新たな講習展開の検討
- 姉妹赤十字社における救急法等の普及活動への支援

（2-2）地域における社会活動

- 地域包括ケア貢献に向けた日本赤十字社が有する各機能の結集
- 他団体等と協力した地域づくり

（3）青少年赤十字事業　909,094千円

- 青少年赤十字創設100周年事業の実施
- 教育現場から選ばれる活動の継続
- 姉妹赤十字社の青少年教育への協力

（4）国際活動　2,943,274千円

（4-1）国際救援・開発協力

- 国際赤十字が優先する人道課題に対する国際救援
- 病院ERUの整備完了にともなう緊急即応体制の更なる強化
- 国際要員の安全管理
- 国際活動に携わる人材の育成
- 地域社会におけるレジリエンスの向上のための開発協力

（4-2）国際赤十字との協働

- 国際人道法の普及と実践
- 国際赤十字・赤新月運動への貢献

（5-1）運動基盤強化/会員・社資　3,495,485千円

- 多様な寄付機会の提供による会員募集及び社資確保
- 法人会員加入の勧奨促進及び既存法人会員との更なる連携強化
- 遺贈・相続財産寄付の推進体制の整備
- 会員等とのコミュニケーションの強化

（5-2）運動基盤強化/ボランティア　738,165千円

- 支部指導講師によるボランティア支援や研修実施のための体制強化
- 赤十字ボランティア研修の継続的な実施
- 他団体や姉妹赤十字社のボランティアとの連携強化

３．令和4年度事業計画のハイライト

（1）新たな救護員育成体系
　　への移行に向けた検討

（2）国際赤十字が優先する
　　人道課題に対する
　　国際救援

（3）青少年赤十字創設
　　100周年事業の実施

（1）新たな救護員育成体系への移行に向けた検討

ア　背景・目的

■自然災害の頻発化・激甚化・広域化

■感染症対策などの救護活動の強化の必要性

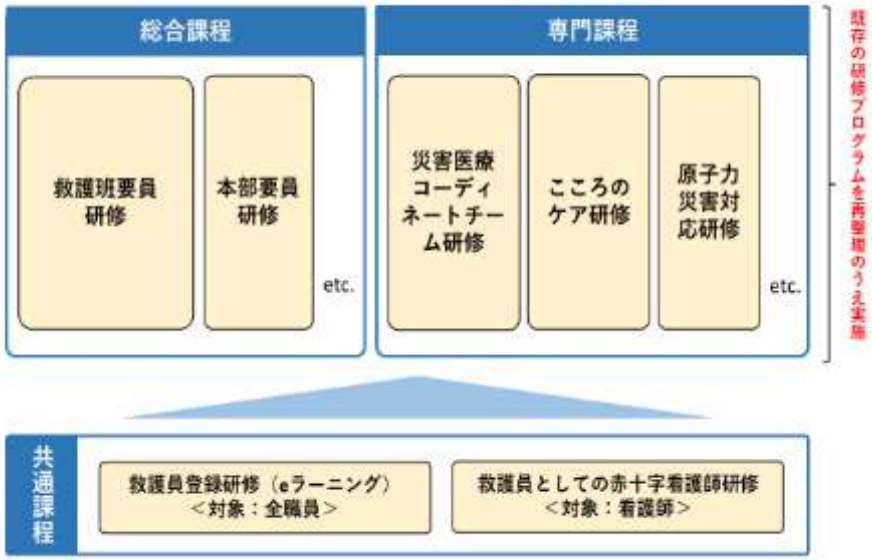
■救護員の更なる質の向上と新たな要員の確保

イ　施策の概要

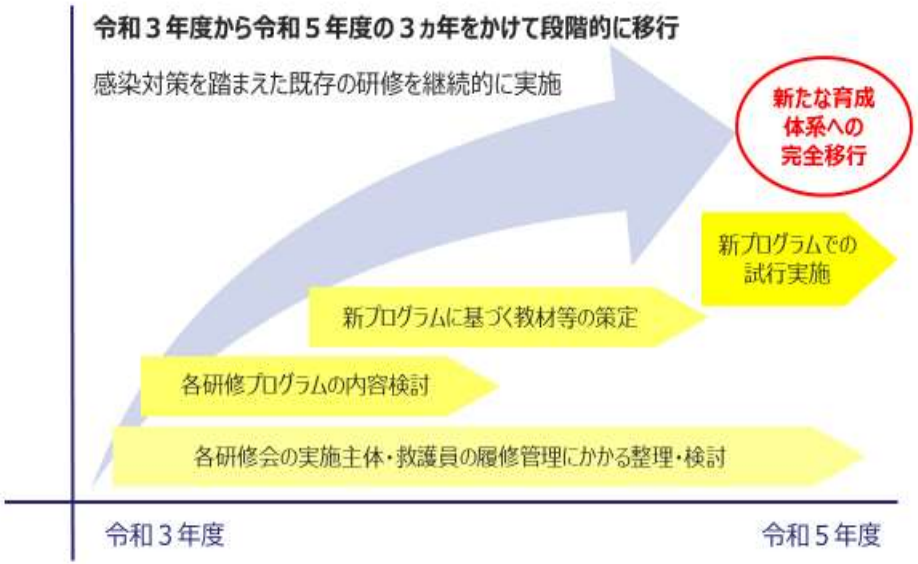
■新たな研修プログラムの具体的な内容検討

■標準的な研修教材の作成

■救護員の履修管理体制の構築検討



【新たな救護員育成体系のイメージ図】



【新たな救護員育成体系への移行計画】

ウ　期待される成果

全国的に統一された育成体系に基づく研修・訓練の実施

⇒ 救護員の質的・量的な充実
⇒ 救護活動の全国的な平準化

（2）国際赤十字が優先する人道課題に対する国際救援

ア　背景・目的

■国際的規模の災害の頻発

■長期化・複合化する人道危機

■支援の手が十分行き届いていない人々（中東、バングラデシュ、南スーダン等）のいのちと健康、尊厳の確保

イ　施策の概要

■国際赤十字との連携、地元スタッフ・ボランティア・受益者を中心とした支援事業
■突発的な人道危機への対処
■中東、バングラデシュ、南スーダン等における各支援事業

レバノンのパレスチナ難民キャンプにあるパレスチナ赤新月社病院で超音波検査機材のトレーニングを行う日赤医師（中央）

ウ　期待される成果

■コロナ禍、気候変動等により一層厳しい状況下にある人々のいのちと健康、尊厳の確保
■地元赤十字や被災者自身の対応能力強化による支援の効果の持続可能性の向上

（3）青少年赤十字創設100周年事業の実施

ア　背景・目的

- 1922年、やさしさや思いやりの心（人道的価値観）を持った子どもの育成を目的に青少年赤十字が始まる
- 学校教育の中で続く「気づき」「考え」「実行する」活動
- 100周年を機に、全国的な取り組みを「見える化」し、これからの活動を考え、青少年赤十字活動の更なる推進を図る

第１回トレーニング・センターで学ぶ子どもたち

国際理解・親善を深める

研修会等で今でも行っているラジオ体操

青少年赤十字100年のうごき

1922年（大正11年）	５月５日守山市立守山小学校（滋賀県）にて日本赤十字社少年赤十字の結団式
1928年（昭和３年）	第１回少年赤十字補導者（指導者）講習会
1948年（昭和23年）	第１回トレーニング・センター
1957年（昭和32年）	幼稚園青少年赤十字の開始
1970年（昭和45年）	青少年赤十字国際交流セミナー「こんにちは’70」
1971年（昭和46年）	橋本祐子(元青少年課長）が日本人で初めてアンリー・デュナン記章を受章
1984年（昭和59年）	ネパール支援のため「一円玉募金」開始
2015年（平成27年）	青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」（小・中・高校生向け）の発刊

イ　施策の概要

（ア）創設100周年事業における全国的な取り組み（例）

- オープニングイベントの開催、WEB配信（５月５日）
- 家族や友達、未来の自分に向けて感謝を伝える手紙
- 青少年赤十字経験のある日赤職員との対談式キャリア教育
- 赤十字ゆかりの地の見学ツアー
- SNSを活用した全国の青少年赤十字活動の「見える化」
- 赤十字の仲間たちとつながるダンス企画（世界192の姉妹社）

山口市立湯田小学校で
撮影した航空写真

（イ）記念書籍の全国の小学校等への配付

- まんがでよくわかるシリーズ（学研）から「青少年赤十字のひみつ」を発行
- 全国の小学校、公立図書館、児童館及び加盟校に配付
- 道徳教材としての長期的な活用
- 電子書籍版のオンライン公開により青少年赤十字を周知

全国の小学校、公立図書館、児童館	青少年赤十字加盟校（幼保・中・特別支援）	合計
25,500部	6,000部	31,500部

「青少年赤十字のひみつ」
マンガシリーズ冊子（イメージ）

ウ　期待される成果

■日本全国及び海外の仲間との連携強化

■全国各地の青少年赤十字メンバーの活動が活発化

■青少年赤十字の理解促進、認知度向上により加盟校及び指導者数の増加

■赤十字活動の理解者及び推進者の更なる増加による人道の輪の拡大

応急処置を学ぶ「健康・安全」活動

社会や人のために尽くす責任を自覚し、実行する「奉仕」活動

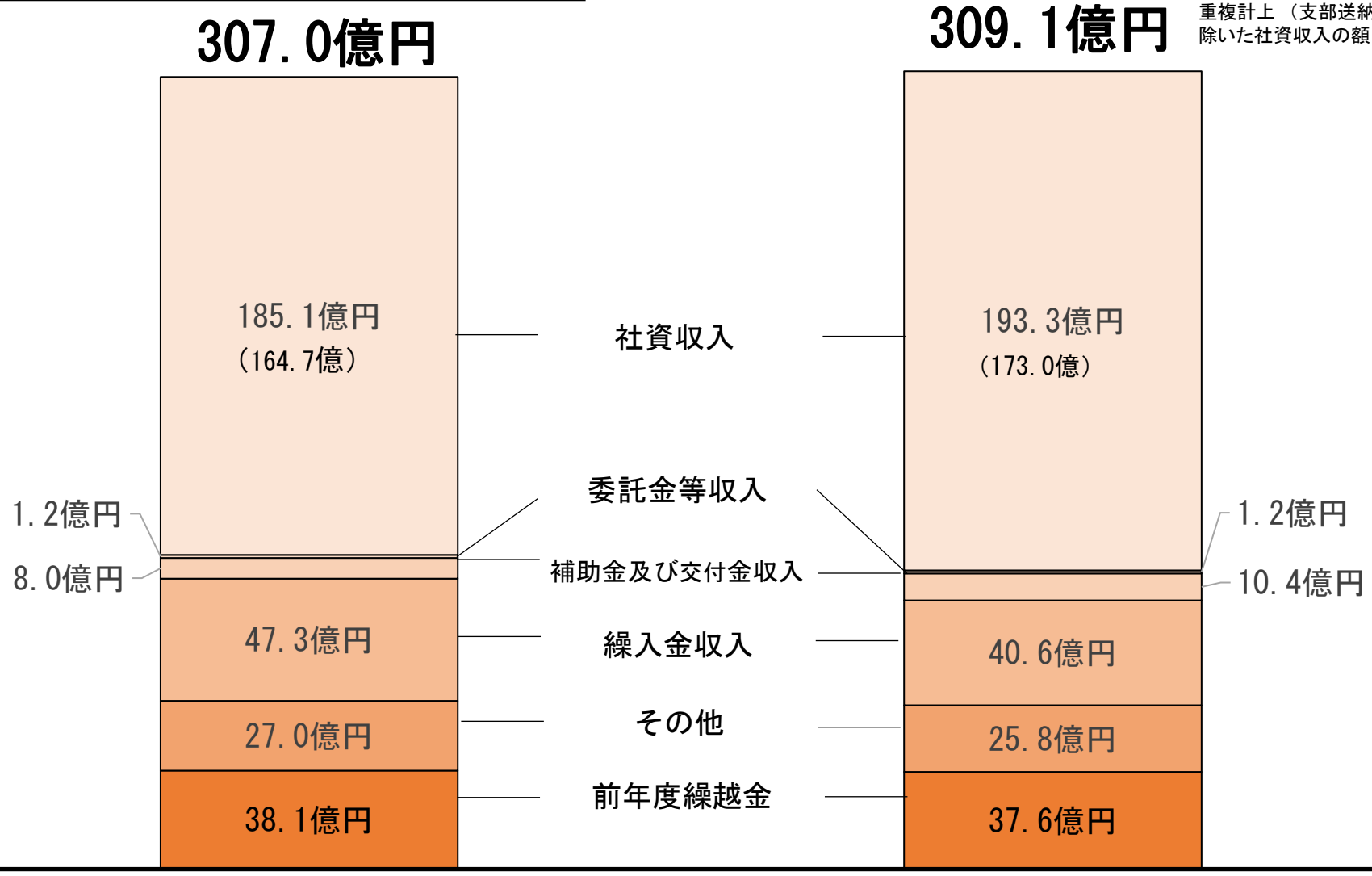
青少年赤十字海外支援事業を通じて行う「国際理解・親善」活動

ハイライト	課題と今後の方向性	令和4年度の具体的到達点
(1)新たな救護員育成体系への移行に向けた検討	• 多発、そして変容する自然災害に確実に対応するため、救護員の質と量を充実させる。	• 令和5年度から試行実施予定の新プログラム(案)及び教材(案)の策定を完了する。
(2)国際赤十字が優先する人道課題に対する国際救援	• 緊急性の高い人道危機に対して、国際赤十字や現地赤十字社との連携の下で、地域中心型の支援を展開する。	• 国際赤十字が発出するすべての緊急救援アピールに対応する(連盟の災害対応緊急基金への資金拠出を含む)。 • 新たに50人の国際派遣要員を育成し、もって緊急即応体制等の強化を図る。
(3)青少年赤十字創設100周年事業の実施	• 人道教育の展開による豊かな心を持った青少年赤十字の育成を強化する。 • 青少年赤十字創設100周年を契機に教育現場から選ばれる活動を展開する。	• 全国の青少年赤十字活動を分かりやすく「見える化」する。 • 記念書籍を完成させ、全国の小学校への配布を完了する。

一般会計歳入予算のあらまし

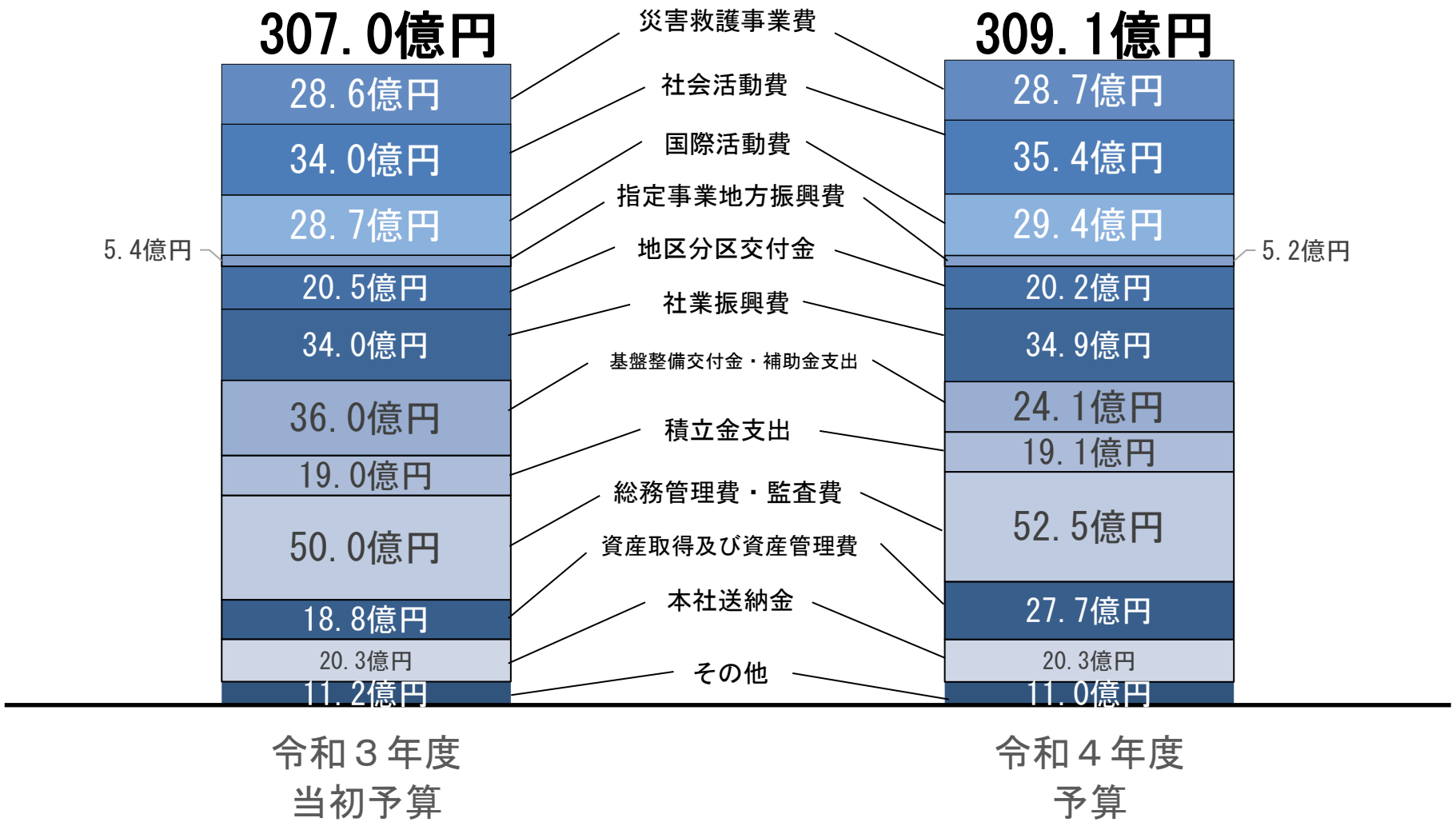
※総合資金貸付金償還金を除く

※カッコ書きは本社・支部間の重複計上（支部送納金）を除いた社資収入の額



令和３年度
当初予算

令和４年度
予算

一般会計歳出予算のあらまし

※総合資金貸付金償還金を除く